

日本の草スポーツの事例とその成長可能性

Grass roots sports : their opportunities of growth in Japan

1K10C311 南部 圭吾

主査 武藤泰明 先生

副査 木村和彦 先生

【目的】

草スポーツといえば昔から存在し現在に至るまで多くの人が楽しんでいるものである。河川敷で早朝から野球をする人々や地域の体育館でバスケットボールやバレーボールを楽しむ人々、地域のサッカーチームやフットサルチームに所属し楽しんでいる人々などと非常に幅が広く草の根が強い。また、会社の中でチームを作り楽しむ人々、大学の同好会に入って楽しむ学生、地域のチームに所属し楽しむ人々など楽しむための手段も幅広い。昔から存在する草スポーツの代表的なものとして、草野球などがある。そして、最近になって知名度を上げてきているものと言えば、ランニングやフットサルなどの競技であろう。これらの競技が最近になり新たな楽しみ方を人々に提供している。それは、インターネットやソーシャルメディアを使ったものである。近年インターネットを使ったツールが目覚ましい発展を遂げているが、それが草スポーツの領域にも届き始めたということだ。それが今後の草スポーツにどのように働き、今後どのように発展していくかを今回の研究では事例とともに考えていきたい。

【方法】

フットサル、ランニング、バスケットボール(3×3)、野球の四つのスポーツを中心に調査を行った。また、総合的にスポーツ大会を扱うウェブサービスや SNS が見られたので同時に調査を行った。リーグや SNS に自ら登録し調査することやリーグへのインタビュー調査をすることによって多くの、情報、事例を集め草スポーツの現状を調査し、体感した。特に草野球リーグである G-LEAGUE にはインタビューに協力していただき、草野球の新たな形、現状を詳しく調査した。

【結果】

様々な調査の結果、現在草スポーツは大きく発展していることが分かった。フットサルにおいては、競技者が 2011 年現在で 370 万人となっており、その発展とインターネットなどの関係は根強いことが分かった。ランニングにおいては多くの情報サイトや SNS が見られた。そこで個人で自分の成績管理を行うこと、コミュニティに入りランニング仲間を増やすなどして多くの人が

楽しんでいることが分かった。バスケットボールのスリーパイスリーの調査も行った。世界の競技人口は 2 億人とも言われているこの競技は国際バスケットボール協会がオリンピック競技入りを目指すことを明言しているなど他の草スポーツにはない特殊な例になっている。スポーツを総合的に扱っているウェブサイトは多くの大会情報やコミュニティなどがあり情報量の豊富さが顕著に現れていた。同時に、コミュニティでは競技の枠を超えたファン同士の交流も可能となっており様々な競技のファンが増える可能性を感じた。野球においては、動画サイトへの動画の投稿や、リーグが情報を管理することで最適なチームとの試合を組むことができること、場所の確保などの事務手続きをすることで多くのチームの満足を得ていた。

【考察】

様々な事例を見てきたがインターネットやソーシャルメディアを使うことで三点メリットがあると感じた。一点目は、草スポーツが手軽に楽しむことができるようになるということだ。場所の確保や日程の調整、大会を調べ、エントリーすることなどの面倒であった事務手続きがウェブサイトに行くだけで済んでしまうようになった。また、様々なチームのデータをリーグが管理することで同レベルのチームとのマッチメイクを達成したという事例も興味深いものであった。参入障壁が無くなったことで今後さらなる草スポーツ人口の増加が見込まれるのではないだろうか。二点目は、プレイヤー、チームの満足度が格段に上がったことである。動画サイトに自分のチームの動画や個人の動画が投稿されることで、メディアはプロだけのものという構造が大きく変わった。あたかもプロであるような自己実現を可能にしたのである。そして、チームの広報活動を動画サイトやリーグ内で行うことでチームの知名度があがり、試合を申し込まれるケースも出てくる。三点目はチーム間、個人のつながりの強化である。今まで地域のチーム、人々としかできなかったスポーツが、日本の全国にまで幅が広がる。様々なチーム、人々とスポーツをできることは、いつも同じチーム、人々と試合をするよりも格段に新鮮さがある。